

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	小児科学			担当講師	石井汰樹		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	小児の成長・発達について理解し、小児期に発生する各疾患と治療について知ること、療育やリハビリテーション、保護者支援の方法について学ぶ。						
到達目標	1. 小児の特徴と成長・発達、成人との違いについて理解する。 2. 各疾患の特徴と治療法について理解する。 3. 小児医療を通して、診療・リハビリテーションの在り方を理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	小児科総論
2	新生児
3	先天異常
4	消化器疾患①
5	消化器疾患②
6	腫瘍
7	循環器疾患
8	中間試験・まとめ①
9	腎・泌尿器・生殖器疾患
10	感染症
11	神経疾患①
12	神経疾患②
13	精神疾患
14	骨・間接疾患
15	終講試験・まとめ②

評価方法	終講試験50%、中間試験30%、課題10%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する
教科書	病気がみえるVol. 15 小児科 メディックメディア出版
参考書	
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	耳鼻咽喉科学			担当講師	岡崎 宏		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能など、基礎的事項について理解を深める。各疾患の病態生理を理解し、検査やリハビリテーションなどについて言語聴覚士として必要な知識を身につける。						
到達目標	1. 外耳・中耳・内耳・後迷路の構造・機能についてより深く理解し、十分に説明できる。 2. 外耳・中耳・内耳・後迷路の疾患についてより深く理解し、十分に説明できる。 3. 顔面神経の構造と機能、顔面神経麻痺、聴力改善手術について説明できる。 4. 前庭・平衡系の構造・機能・検査について説明できる。 5. メニエール病、良性発作性頭位眩暈、前庭神経炎などの主要なめまい疾患について説明できる。 6. 鼻副鼻腔の構造・機能・検査、嗅覚、嗅覚障害などについて説明できる。 7. 外鼻疾患、形態異常、外傷など、主要な鼻副鼻腔の疾患について説明できる。 8. 鼻アレルギー、副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍など、主要な鼻副鼻腔の疾患について説明できる。 9. 口腔・咽頭の構造・機能・検査、について説明できる。 10. 舌・唾液腺疾患、鼻咽腔閉鎖不全、味覚障害など、口腔、咽腔の主要な疾患について説明できる。 11. 喉頭の構造・機能・検査、炎症性疾患、腫瘍・良性腫瘍などについて説明できる。 12. 喉頭の悪性腫瘍、外傷、音声外科、喉頭全摘・無喉症などについて説明できる。 13. 気管・気管支・食道の構造・機能、検査、疾患、気管切開術などについて説明できる。 14. 頸部の解剖、甲状腺を含む頸部の疾患、頸部郭清術、再建術などについて説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	耳科学①外耳・中耳・内耳・後迷路の構造・機能						
2	耳科学②外耳・中耳・内耳・後迷路の疾患						
3	耳科学③顔面神経の構造と機能、顔面神経麻痺、聴力改善手術						
4	耳科学④前庭・平衡系の構造・機能・検査						
5	耳科学⑤めまい疾患（メニエール病、良性発作性頭位眩暈、前庭神経炎など）						
6	鼻科学①鼻副鼻腔の構造・機能・検査、嗅覚、嗅覚障害						
7	鼻科学②鼻副鼻腔の疾患Ⅰ（外鼻疾患、形態異常、外傷など）						
8	鼻科学③副鼻腔の疾患Ⅱ（鼻アレルギー、副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍など）						
9	口腔・咽頭科学①口腔・咽頭の構造・機能・検査						
10	口腔・咽頭科学②口腔・咽頭疾患（舌・唾液腺疾患、鼻咽腔閉鎖不全、味覚障害など）						
11	喉頭科学①喉頭の構造・機能・検査、炎症性疾患、腫瘍・良性腫瘍など						
12	喉頭科学②喉頭の悪性腫瘍、外傷、音声外科、喉頭全摘・無喉症など						
13	気管・食道科学 気管・気管支・食道の構造・機能、検査、疾患、気管切開術など						
14	気管・食道科学 頸部の解剖、甲状腺を含む頸部の疾患など						
15	気管・食道科学 頸部郭清術、再建術など						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	病気が見えるVol. 13 耳鼻咽喉科 メディックメディア						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	臨床神経学			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	リハビリテーションにおける脳・脊髄神経系、末梢神経、筋の機能とそれらに関係する神経疾患の病態と診断、治療についての知識を学習する。また、個々の障害に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深めることを目標にしている。						
到達目標	1. 各神経系の構造と機能について説明できる 2. 各種障害の評価および神経学的診断法を説明できる 3. 代表的な神経疾患について説明できる 4. 神経疾患における診断・治療について説明できる 5. 神経疾患を有する方へのリハビリテーションについて説明できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	神経系の構造と機能
2	脳神経系、自律神経系、他
3	運動機能および感覚機能、運動機能障害および感覚機能障害
4	各種高次脳機能および高次脳機能障害
5	脳血管障害（画像診断、脳機能解剖など）
6	脳血管障害（分類、評価法、急性期リハビリテーション、予後など）
7	脊髄損傷
8	パーキンソン症候群、ニューロパチー
9	運動ニューロン疾患
10	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発性硬化症
11	ミオパチー、重症筋無力症
12	小児疾患
13	脳腫瘍、脊椎疾患
14	脳脊髄炎、てんかん、他
15	終講試験

評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する
教科書	特に指定はない
参考書	特に指定はない
備 考	特になし

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	音声医学			担当講師	松本典之、西尾康二		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	発話や発声に用いられる諸器官の構造および機能について学ぶ						
到達目標	発話や発声に用いられる諸器官の構造および機能について説明することができる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	コミュニケーションと音声言語
2	呼吸器系について
3	気管、気管支、肺の解剖
4	胸郭の構造と働き
5	呼吸筋
6	喉頭の解剖
7	内喉頭筋と外喉頭筋の解剖・機能
8	内喉頭筋と外喉頭筋の機能
9	声帯の構造
10	咽頭の解剖・機能
11	軟口蓋の解剖・機能
12	舌の解剖・機能
13	下顎筋（咀嚼筋）と顎関節の解剖・機能
14	顔面の解剖・機能
15	終講試験

評価方法	終講試験（100％）
教科書	配布資料
参考書	
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	言語医学			担当講師	田中眞一、西尾康二		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	言語聴覚士の扱う障害に医学的根拠をあたえる科目である。 言語に関する構造・機能を解剖学・生理学の基礎から理解し、言語医学の基盤に基づいてコミュニケーション障害の病態に対する基本的な概念を形成する。言語的活動の理解に資するため、それを広く取り巻く脳神経活動を包括的に理解する。認知・神経科学の基礎となる中枢神経系の構造・生理学的知見を学ぶ。あわせて基本的な高次脳機能障害についても学ぶ。						
到達目標	・発話の神経運動支配を知る ・脳神経を知る ①言語と聴覚のための脳神経を理解する ・脳神経を知る ②脳神経の役割を理解する ・言語中枢メカニズムとその障害を知る ・基本的な高次脳機能障害を知る ・班発表で役割を分担できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	発話の神経運動支配
3	脳神経 言語と聴覚のための脳神経
4	上位運動ニューロン障害
5	下位運動ニューロン障害
6	言語中枢メカニズムとその障害①
7	言語中枢メカニズムとその障害②
8	言語中枢メカニズムとその障害③
9	言語中枢メカニズムとその障害④
10	言語中枢メカニズムとその障害⑤
11	言語と聴覚の脳神経
12	言語中枢
13	発話の運動神経
14	発話の運動神経
15	終講試験

評価方法	終講試験50%、班発表課題50%に基づいて学修成果を判定する
教科書	病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア
参考書	プリントを適宜配布
備考	教科書を読みながら進めていくが事前によく教科書を読み理解しておくことが必要である。 発表準備を班ごとに十分しておくこと。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	認知心理学			担当講師	松井 進		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	この科目では、人間の心の働きと行動の制御を理解するため、「認知」を主に神経心理学と情報処理学の観点から検討する。「認知機能に関する科学」を学ぶ。						
到達目標	1. 認知心理学に関する歴史的な流れを説明できる。 2. 実験心理学と行動主義の位置づけを説明できる。 3. 認知心理学と関連深い隣接諸学を説明できる。 4. 中枢神経系の機能を細胞のレベルで説明できる。 5. 中枢神経系の機能をシステムレベルで説明できる。 6. 視知覚に関する重要な基本特性を説明できる。 7. 図形知覚に関する諸基本原則を説明できる。 8. 奥行き知覚に関する諸基本原則を説明できる。 9. 運動知覚に関する諸基本原則を説明できる。 10. パターン知覚、とくに相貌認知を説明できる。 11. 注意が認知に及ぼす影響について説明できる。 12. 認知と記憶の基礎的な機構を説明できる。 13. 認知と記憶の具体的な実例を説明できる。 14. 情動が認知に及ぼす影響について説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	認知心理学の歴史
2	実験心理学、行動主義
3	認知心理学と隣接諸学
4	神経生理学基礎- 1
5	神経生理学基礎- 2
6	視知覚の基礎特性
7	図形知覚
8	奥行知覚
9	運動知覚
10	パターン認知（顔の認知）
11	認知と注意
12	認知と記憶- 1
13	認知と記憶- 2
14	認知と情動
15	まとめ

評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する
教科書	言語聴覚士のための心理学(第2版) 医歯薬出版
参考書	
備考	授業の形式は「講義」であるが、可能な限り「実験」を取り入れる予定である。実験においては、受講者の積極的な参加を切に望む。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	学習心理学			担当講師	松井 進		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	学習心理学の基礎を学ぶ。人間や動物の学習はどう研究されてきたか、その結果環境と行動の関係や行動の予測と制御はどこまで可能になったかを知る。また、基礎的学習理論が臨床的な分野とどのように結びついているのかを考えていく。そして、将来言語聴覚士としての応用を考える。						
到達目標	1. 学習の基本的な理論である「条件づけ」のタイプとメカニズムを説明できる（認知） 2. 基本的ないくつかの学習タイプ（条件づけ～モデリングまで）を具体的に説明できる（認知） 3. 学習理論に当てはめ自分自身の行動を客観的に分析することができる（技能） 4. 記憶の種類や特性を説明できる（認知） 5. 日常場面での記憶と実験室実験での記憶の違いを考察できる（態度・習慣） 6. 代表的な発達理論について説明できる（認知） 7. 脳と心は、どのような関係にあるのか、基本的なメカニズムについて理解できる（認知） 8. 条件づけ等学習理論が臨床場面とどのように応用されているか理解できる。 9. 脳に障害をもった人にはどのようなサポートが必要か考えることができる。 10. 言語聴覚士としてエビデンスに基づいた療法を実施できる。 11. 国家試験過去問題の傾向を知り、対策を講ずることができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス 1. 学習の定義 2. 学習の諸理論						
2	I 古典的条件づけ 1. 典型例 2. 行動の獲得						
3	I 古典的条件づけ 3. 条件づけの消去 4. 条件づけの汎化と弁別						
4	II オペラント条件づけ 1. 典型例：報酬訓練、逃避・回避訓練、罰訓練						
5	II オペラント条件づけ 2. 行動の獲得と消去：強化スケジュールと消去手続き						
6	II オペラント条件づけ 3. 汎化と弁別						
7	III 技能学習 1. 鏡映描写実験—学習曲線作成—						
8	III 技能学習 2. 結果の知識 3. 練習の条件 4. 技能の記憶 5. 技能の転移						
9	IV 社会的学習						
10	V 問題解決と推理						
11	VI 概念過程と言語獲得						
12	VII 記憶と忘却 1. 記憶の過程 2. 忘却曲線 -記銘、保持、想起、忘却、干渉説-						
13	VII 記憶と忘却 3. 記憶の病態						
14	VIII 学習の障害 IX 学習理論の医療への応用-医療行動科学概説-						
15	X まとめ、国家試験対策						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	言語聴覚士のための心理学(第2版) 医歯薬出版						
参考書	現代心理学Ⅰ～Ⅲ サイエンス社 学習心理学への招待 サイエンス社						
備 考	成績評価は受講態度も加味する。時間が許せば、記憶の実験、心理検査等も実施する。						

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	心理測定法			担当講師	松井 進		
分 野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	人間の精神的機能を測定する技法と基礎的事項を習得する						
到達目標	1. 行動計量の科学的概念が説明できる。 2. 精神物理学測定が実施でき、測定誤差の統制ができる。 3. 知能検査が実施できる。 4. 尺度構成法に習熟し統計分析ができる。 5. 心理測定法の専門用語が説明できる。 6. 記憶について理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	心理測定法の理論，数量化の意義						
2	性格の測定						
3	行動科学の基礎的概念						
4	精神物理学測定法の基礎概念（閾と認知）						
5	錯視と測定手続き						
6	記憶（ワーキングメモリー）の測定と実験計画法						
7	極限法／恒常法						
8	尺度構成法の基礎（信頼性と妥当性）						
9	心理テストの結果の見方／SD法と評価法／ 1次元尺度と多次元尺度						
10	知能検査の実際						
11	心理測定の論理と技法／心理測定の目的，概念，対象						
12	心理測定尺度の作成						
13	心理測定尺度の実施						
14	心理測定尺度の集計・分析・標準化						
15	心理測定尺度のまとめと報告／専門用語の確認と国家試験過去問題解説						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	言語聴覚士のための心理学(第2版) 医歯薬出版						
参考書	心理テスト法入門第4版 日本文化科学社 心と行動のサイエンス 北樹出版						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	音響学			担当講師	岡崎 宏		
分野	専門基礎分野	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	音声の物理的側面の基本的な事項を理解する。基礎的な数学の知識（三角係数、指数関数、対数関数）が必要となるが、講義において基礎知識を身につける。						
到達目標	1. 波が持つ特徴を説明できる 2. 波長・周期・周波数・振幅について説明できる 3. 周波数について説明できる 4. 共鳴現象を説明できる 5. 音の強さと大きさが波形として表されるとき、その関係をグラフから説明できる 6. 対数の計算ができる 7. 音の強さと音圧の計算ができる 8. 線スペクトルと連続スペクトルについて説明できる 9. フーリエ変換がどのようなものか説明できる 10. 音源フィルター理論における3つの特性を説明できる 11. フォルマントを説明できる 12. フォルマントと舌との関係を説明できる 13. サウンドスペクトログラムを読むことができる 14. フォルマント遷移、ローカスを説明できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	音の物理的側面
2	音の物理学入門、音に関する物理量
3	音の基本公式、純音、複合音、フーリエの原理
4	対数・指数関数、デシベル表示
5	音声波形表示、スペクトル表示、サウンドスペクトログラム
6	呼吸・発声のしくみ、スペクトルとサウンドスペクトログラムの関係
7	音源フィルタ理論、共鳴する条件
8	中間試験・まとめ①
9	狭帯域分析、広帯域分析、標本化定理
10	アナログとデジタル、標本化・量子化、サンプリング周波数
11	母音・鼻母音の音響分析、母音の無声化、調音結合
12	音声表記と音韻表記、日本語母音・子音の音響特徴
13	超分節の特徴、声の性差、ラベリング
14	Praatで音声波形分析、周波数分析、信号とシステム、線形システム
15	終講試験・まとめ②

評価方法	終講試験50%、中間試験30%、課題10%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する
教科書	音響・音声学(Crosslink 言語聴覚療法学テキスト) メディカルビュー社
参考書	言語聴覚士のための音響学 医歯薬出版株式会社 言語聴覚士の音響学入門 海文堂 図解雑学『音のしくみ』 音のなんでも小事典 ブルーバックス
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	聴覚心理学			担当講師	岡崎 宏		
分 野	専門基礎分野	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	音の聴覚における認知は物理的に捉えたものと異なる点がある。このことを念頭に置き、聴覚における心理的側面を理解する。						
到達目標	1. フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則、ウェーバーの法則を説明できる。 2. メル尺度を説明できる 3. ソーン尺度を説明できる。 4. 場所ピッチと時間ピッチを説明できる。 5. マスキングを説明できる。 6. 臨界帯域を説明できる。 7. 両耳聴について説明できる。 8. 聴覚の情景分析、視聴覚情報の統合、生活環境と聴覚を理解できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	聴覚器(耳)の構造
2	聴覚刺激の伝播過程
3	音の心理物理学①：音の心理的側面と物理的側面
4	音の心理物理学②：可聴範囲、聴覚閾値
5	音の大きさの知覚
6	音の高さの知覚
7	音の種類
8	中間試験・まとめ①
9	マスキング現象と臨界帯域
10	聴覚フィルタ、
11	両耳聴、音源定位
12	音による環境理解と騒音
13	聴覚疲労・聴覚順応
14	両耳分離聴
15	終講試験・まとめ②

評価方法	終講試験50%、中間試験30%、課題10%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する
教科書	音響・音声学(Crosslink 言語聴覚療法学テキスト) メディカルビュー社
参考書	言語聴覚士のための音響学 医歯薬出版株式会社 言語聴覚士の音響学入門 海文堂 図解雑学『音のしくみ』 音のなんでも小事典 ブルーバックス
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	社会福祉学			担当講師	伊藤浩一、齋藤智子、薄井智美、高堀雅子		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	3年次	学 期	前期
概 要	社会福祉とは何か。社会福祉サービスの体系・対象と援助技法、従事者の職業倫理と利用者保護、制度と法・財政、歴史、国内外の動向等を踏まえ、現代社会における社会福祉の理念と意義について学習し、社会と人間に対する理解を深める。						
到達目標	1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解する。 2. 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解し、追体験する。 3. 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。 4. 社会福祉の専門性と倫理について理解する。 5. 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解する。 6. 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。 7. 社会福祉をめぐるわが国及び諸外国の動向について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	社会福祉とは何か
2	社会福祉の歴史と理念
3	現代における社会福祉の役割
4	社会福祉の対象と把握の方法
5	社会福祉援助の活動領域
6	援助の方法と気づきの促進1
7	援助の方法と気づきの促進2
8	社会福祉におけるチームワークと連携
9	社会福祉の基礎構造改革
10	社会福祉専門職と資格制度
11	社会福祉のしくみ1
12	社会福祉の仕組み2
13	社会福祉をめぐる動向1（児童虐待 DVの理解と支援）
14	社会福祉をめぐる動向2（改正介護保険法、障害者自立支援法）
15	まとめの討論 社会福祉とは何か

評価方法	終講試験の点数（100％）に基づいて学修成果を判定する。
教科書	新時代の社会福祉 ふくろう出版
参考書	言語聴覚士テキスト第3版
備 考	毎日、新聞をよく読むことを勧める。教科書は特に指定しないが、随時授業の中で参考書籍を紹介する。討論、演習を中心にした授業を行う。学習テーマにより事前あるいは事後にレポートの提出を求める。